

# 2018年度 チーム医療演習実施報告

▶横田 浩充

チーム医療演習が8月7日(火)・8日(水)の日程で、クロスウェーブ・船橋(千葉県船橋市)にて開催された。本演習は医・薬・理・看護4学部の全学共通教育として行われており、今年で10回を数える。例年、それぞれの職種(医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師)をめざす学生による混成チームでのチームアクティビティを通じて、多職種連携のチーム医療を演習形式で学習している。今回、参加した学生は46名(医学部11名、薬学部14名、理学部14名、看護学部7名)で、各学部混成の7チームを編成し演習を行った。また、高松研学長をはじめ4学部の教員および事務職員の計15名、さらに本学医療センターから医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、臨床心理士、計8名の医療者を派遣していただいた。

初日は、チーム医療についての座学の後、チームアクティビティ①として、チーム医療を進める上での各職種の専門性(知識、技能、業務内容)とその役割を協議した。各医療者には各チームに10分間のローテーション形式で入っていただき、職務内容とチーム医療の実践についてご助言をいただいた。学生は個々の職務内容を熱心に聞き入り、その実践的な内容が新鮮で

感銘を受けた様子であった。続いて、チームアクティビティ②として、チーム医療を実践するために必要な各職種の役割を協議し、その専門性と役割を確認した。各チームは、これらのアクティビティについて相互の意見を集約し、初日の成果を発表した。その後、教員および医療者から講評をいただいた。夕食兼交流会では、学生間および教職員一同のさらなる和が深まり、盛会となった。

2日目は台風の接近があり、交通機関の混乱が予想されたため終了時刻を少し早めた。チームアクティビティ③は、チーム医療の実践として2つの事例に対して、患者が抱えている問題、病態の分析も含め、解決に導くための各職種の協働について演習した。学生は実際の事例から各職種の専門性を相互に学び、各医療者の方々から専門性ある仕事内容の説明、助言をいただき、他職種の連携したチーム医療とは何かを考え、資料を作成、その結果を各チームが発表した。

今年の発表も大変優秀で、各チームは実際の現場ですぐにでも活躍できると期待がもてるほどであった。

(理・教育開発センター臨床検査技師課程・教授)



チーム医療の実践について助言する高松学長



チームアクティビティの様子



各職種の役割について協議



各チームによる発表